

## 【ごみと資源物の処理経費】

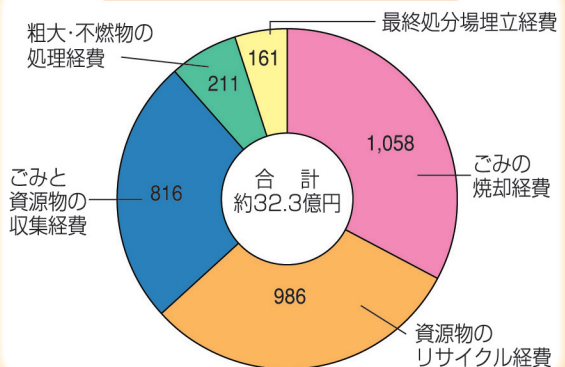
平成19年度のごみと資源物の処理経費は、約32億3千万円です。

市民一人当たりで換算すると1年間で約1万2千円もかかっていることになります。

処理経費の総額は平成18年度に比べて7千万円ほど減っていますが、資源物のリサイクル経費が約3千万円、粗大・不燃物の処理経費が約2千万円それぞれ増えています。

リサイクルにも莫大な経費がかかっています。ごみだけでなく、資源物も減らすよう、ご理解とご協力をお願いします。

平成19年度のごみ処理経費(単位:百万円)



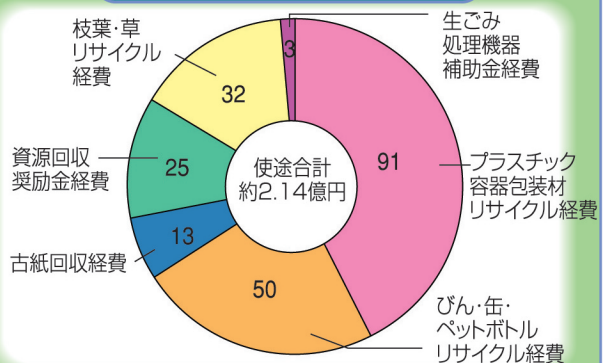
## 【家庭ごみ一部有料化で得た収入の使途】

指定袋の売上げは約2億9千万円で、そこから指定ごみ袋の作成・販売委託料などの経費を除くと、約2億1千4百万円の収入となりました。

右のグラフのとおり、家庭ごみの一部有料化により得られた収入は、すべてごみの減量とリサイクルの推進事業に充てています。

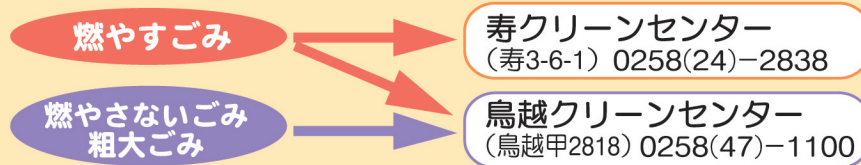


平成19年度 収入の使途 (単位:百万円)



## 中之島クリーンセンターのごみ処理業務を3月末で終了します

4月以降に、ごみを直接持ち込みたい場合は下記のクリーンセンターで受付します。(引越しなどでやむを得ず多量のごみが出たときに限ります)



## 災害廃棄物処理事業を2月末で終了します

この事業は、大量に出される災害ごみを適正に処理するために、市が中越大震災以来取り組んできたもので、これまでの処理量は、中越大震災分が約20万トン、中越沖地震分が約1万5百トンで、市が例年処理するごみ量の2年分に相当するものです。これらの災害廃棄物を処理するために、それぞれ約57億5千万円、約3億5千万円の費用がかかりました。

災害ごみは、一時集積場(関原町1丁目地内)で、リサイクルに配慮しながら、可燃物、不燃物、鉄くずなどに分別・保管し、その後、リサイクル施設や焼却・埋立施設へ運搬し、適正に処分しました。

なお、一時集積場では、水質検査(排水、河川、地下水)を年に4回、大気汚染調査を年に6回行なってきましたが、規制値を超える有害物質は検出されませんでした。

問い合わせ 環境施設課 TEL.0258-24-2838